

花の観光地づくりで奨励賞

観音川フラワーロード

日本観光協会が主催する「花の観光地づくり大賞」で観音川フラワーロード実行委員会（渡辺昭会長）が『奨励賞・花の触れ合い賞』を受賞しました。この賞は、花の名所や景観を整備し、地域の観光振興に寄与している団体を表彰するもので、県内では初めての受賞となります。また、副賞として90万円相当の花のプランターが協会から贈られました。

同実行委員会は観音川沿い3.2kmにコスモス、宮山公園に隣接する畑4.7haには、ひまわりを栽培し、多くの観光客を魅了しています。



舞い上がる炎に無病息災を願う

市内各地でどんど焼き

小正月を祝う『どんど焼き』の行事が市内各地で行われました。どんど焼きは用の済んだ破魔矢やだるま、しめ縄などを持ち寄って焼き、その火で焼いた餅を食べ、無病息災を願うものです。

1月14日には明野地区の東保末でどんど焼きが行われました。高さ約5メートルの大きな櫓に点火されると、乾いた藁が勢いよく燃え上がり、参加した人たちの顔を真っ赤に染めました。焼いた餅を食べた子どもたちは「今年はこれで風邪ひかないね」とうれしそうに話していました。



見直そう地域の良さ

大好きいばらきネットワーク活動推進大会

1月21日、市生涯学習センター・ペアーノで、『大好きいばらきネットワーク』活動推進大会 県南・県西ブロックが開催されました。まちづくりなどの地域活動を県民や企業、行政の連携で支えあう『大好きいばらき県民運動』普及に努める、県南・県西地域のネットワーク約360人が参加。村田三所神社の神輿を23年ぶりに復活させた村若会会長の大吉貞順さんなどが事例発表を行い、ちびっこ合唱隊、こまきコーラス、明野遊戯座が、アトラクションとして合唱や太鼓演奏を披露しました。



筑西あらかると



おでかけガイド

詳細は変更になる場合があります。事前に確認しておでかけください。

2/12(月)まで 第5回 現代茨城作家美術展

茨城県近代美術館 [水戸市TEL 029-244-5553] 開館時間
午前9時30分から午後5時 月曜休館(最終日は開館) 入
場無料 市内在住の作家の作品(下記)も展示されています。

- 洋画 飯泉俊夫 ～琴を弾く男(はにわ)～
柳田 昭 ～忘れえぬところ～
館野 弘 ～僕たちの将来-囚われの形で-～
- 工芸美術 大西 勲 ～曲輪造黒・朱溜盛器～
- 書 鶴見香萩 ～韓翃詩～ (敬称略)

2/17(土)から 加山又造展

茨城県近代美術館 [水戸市TEL 029-244-5553] 開館時間
午前9時30分から午後5時 月曜休館 一般830円 高大生
580円 小中学生350円 3月25日(日)まで開催

2/18(日)まで 春を呼ぶ福寿草まつり

茨城県フラワーパーク [石岡市TEL 0299-42-4111] 開園時間
午前9時から午後4時 大人370円 小人190円 月曜休館
■同時開催 球根ベコニア展…5月31日(木)まで

3/8(木)から 再興第91回院展茨城五浦展

茨城県天心記念五浦美術館 [北茨城市TEL 0293-46-5311]
開館時間 午前9時30分～午後5時 月曜休館 一般500円
高大生300円 小中学生200円 3月25日(日)まで開催

3/18(日) ～ありがとう～天童よしみコンサート

下妻市民文化会館 [下妻市TEL 43-2118] 昼の部・開演午後
2時30分 夜の部・開演午後6時30分 シングル券6,500
円 ペア券12,000円(全席指定) チケット好評発売中

3/23(金) 川井郁子 ヴァイオリンコンサート

小美玉市立総合文化センターコスモス [小美玉市TEL 0299-26
-9111] 開演 午後6時30分 3,000円(全席指定) ソリストと
して、活躍の場を海外にも広げています。チケット発売中

3/24(土) 綾戸智恵コンサート2007

栃木県総合文化センター [宇都宮市TEL 028-643-1013]
開演 午後4時30分 7,000円(全席指定) 強烈な感動を与
えてくれるエネルギッシュなコンサートをお楽しみください。

ぼくたち・わたしたち 1歳になりました

わが家のアイドル



すずき れん
鈴木 漣 くん
2月2日生(高津)



いしづか なおき
石塚 直揮 くん
2月4日生(田中町)



おおやま
大山 はるな ちゃん
2月8日生(茂田)



こうだ まなと
鴻田 真翔 くん
2月8日生(本城町)



いがらし もげん
五十嵐 夢元 くん
2月9日生(樋口)



しのぎき ゆい
篠崎 由依 ちゃん
2月9日生(茂田)



たなか たいせい
田中 大惺 くん
2月11日生(市野辺)



ひろせ あゆみ
廣瀬 歩 ちゃん
2月14日生(藤ヶ谷)



おおしま さき
大島 咲希 ちゃん
2月16日生(門井)



おかだ こうた
岡田 輝太 くん
2月18日生(伊佐山)



すずき えいしん
鈴木 英新 くん
2月20日生(柳)



のだ けいご
野田 圭悟 くん
2月23日生(中館)



やまぐち ひまり
山口 向日葵 ちゃん
2月24日生(築地)



いなば ひろと
稲葉 洸翔 くん
2月25日生(村田)



アイドル募集

平成18年4月生まれのお子さんの写真を募集しています。写真裏面に①お子さんの氏名・ふりがな・生年月日・性別 ②保護者氏名・郵便番号・住所・電話番号を明記し、2月28日(水)までに市広報広聴課へ。応募者多数の場合は抽選とします。



6年生が描くわたしの夢・このまちの未来

マイ・ドリーム

小栗小学校

児童数185人



やすだ しょうた
安田 翔太

ぼくの夢は、漫画家になること。筑西市に暮らす人たちが、豊かな心で過ごせるといいと思います。



ねごや あゆみ
根小屋 あゆみ

私は将来、警察官になりたいです。犯罪がなくみんなが安心して暮らせる笑顔いっぱい筑西市にしたいな。



ひろせ りゅうた
廣瀬 隆太

ぼくは将来、プロ野球選手の中でも投手になりたいです。みんなが人に優しいまちになってほしいな。



えびはら みき
海老原 光希

私の将来の夢は、優しい幼稚園の先生になることです。私は思いやりのある、協力し合う筑西市にしたいな。



こばやし けいすけ
小林 啓亮

ぼくの夢は、消防士になること。みんなが安心して、平和に暮らせる筑西市にしたいと思います。



こばやし まりこ
小林 茉莉子

新聞記者になって特色や文化財などを記事にしたいな。誰もが住んでみたいと思うようなきれいなまちにしたいです。



すぎやま みか
杉山 弥加

多くの人に感動を与えられるような世界一のマラソン選手になりたいです。お年寄りが豊かに暮らせるまちになってほしいな。



つちや りゅうと
土谷 龍斗

ぼくの夢は、イタリアサッカートームのユベントスでプレーをすること。筑西市をみんなが暮らしやすいまちにしたいです。



うちだ まさと
内田 真杜

将来の夢は、今やっている剣道が続けて指導者になること。みんなが安全に暮らせる自然豊かなまちにしたいな。



ひろせ まい
広瀬 真唯

私は将来、困っている人を助ける仕事がいいます。筑西市をみんながずっと住んでいたいと思うまちにしたいな。

大田小学校

児童数811人

親は子どもたちの良い見本に

先日、旧下館市五所地区にある下館総合体育館に行ってきた。

駐車場につくと、身体障害者用駐車場が満車で、付近の駐車場通路も満杯状態でした。体育館から離れた駐車場の奥の方は空車が目立ち、障害者の方のスポーツ大会でも開催しているのかと思っていました。ところが、体育館では中学生のスポーツ大会が行われており、身体障害者用駐車場にとめてあったのは、父兄の方々の車でした。駐車場の区分などおかまいなしで、体育館に近いところから駐車しているようでした。

いくら子どもたちに倫理道徳を語ろうとも、親が最も悪い見本となっていては、子どもの価値観が正しく育つのはとても難しいと感じました。

匿名男性（小川・41歳）



日ごろの暮らしの中で思っていることを投稿してください。匿名可。広報広聴課まで

おたより

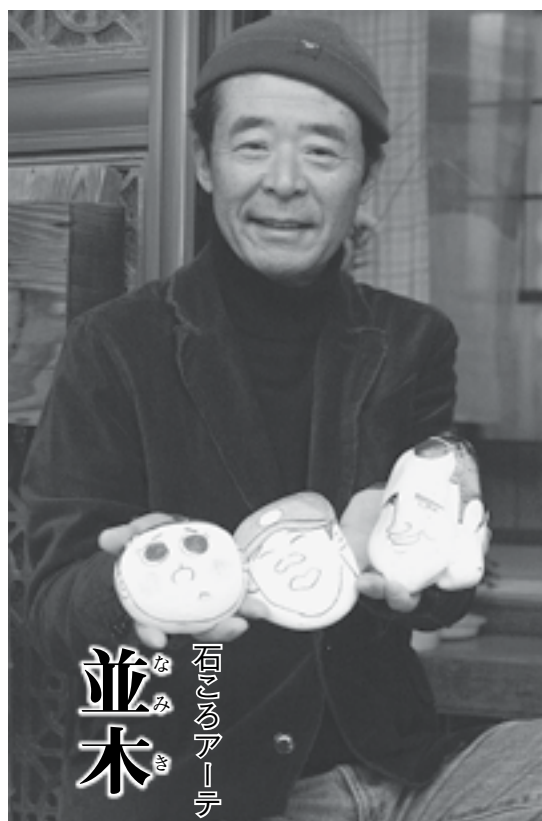
スナップ

みんなで子育て

親子で学び・楽しく遊ぶ子育て支援

市地域女性団体連絡会（関根静子会長）では毎月、未就学の子どもたちと親を対象にした子育て支援イベントを開催しています。1月23日には、下館地域交流センターで心と体のバランスをとる「健康体操」が行われ、親子で楽しく汗を流しました。

みなさんもぜひ、子育て支援イベントに参加してお友達をたくさん作りませんか。



石ころアーティストの『ストーン並木』こと
並木 勝利さん（女房）



然石を拾い集め、有名人や動物などの絵を描き続ける並木勝利さん（63歳）。これまでに描いた作品は、相撲の琴欧州（写真右）や野球の松坂大輔（同中央）、卓球の福原愛（同左）など

「市内外の老人介護施設や幼稚園を慰問するボランティア活動も行っています。ボランティアの基本は自分が楽しむことですね。老人介護施設では、作品を前に三味線片手で自作の都都逸を披露。中には喜んで踊り出すお年寄りもいます。子どもたちとは石を使ったお絵かき遊び。石がきっかけで、たくさんのお会いがありました。この出会いを、ぜひ筑西のまちおこしにもつなげたいと思います」。毎日河原を歩き、鬼怒川の自然と四季の移り変わりに触れている並木さん。そのためか、今では体調も回復したそうです。

—— 石ころに描いた似顔絵を通して 広がる人の輪、まちおこしの輪 ——

「糖尿病をわずらい2年前に入院。退院後、運動のために近所の河原を散歩していたところ、足もとの石が猫の形に見えたんです。そこでその石を拾って帰り、猫の絵を描いたのが始まりです」と語るのは、鬼怒川の河原にころがる自然石を拾い集め、有名人や動物などの絵を描き続ける並木勝利さん（63歳）。これまでに描いた作品は、相撲の琴欧州（写真右）や野球の松坂大輔（同中央）、卓球の福原愛（同左）など

約160点におよびます。昨年は市立中央図書館で、『石ころ・コロリン展』と題して作品を展示。また、関城支所を会場に行われた『どすこいペア』では、ゲストとして来場した琴欧州から「ぜひ自分の似顔絵作品を譲って欲しい」と頼まれ、横綱になったら贈呈することを約束しました。

自分たちの力で防犯活動

—— 各地区で子どもを守るボランティアが活躍 ——

みんなで守る

栃木県今市市で小学1年生の女兒が犠牲となった事件は、1年以上たった今でも犯人が逮捕されておらず、地域の不安は解消されていません。同じような事件が全国で発生しており、市内でも不審者

発生の情報が続を絶ちません。

行政や学校では、これまでも危険箇所点検や巡回などを行ってききましたが、人的、地理的に限界がありました。このような状況に立ち上がったのが、保護者や自治会、老人会などによるボランティアのみなさんです。



中地区では、スクールガードの会員がリレー方式で子どもたちを自宅まで送り届けます。

下校途中の小学生をねらった犯罪が全国で多発し、罪のない子どもたちが犠牲となる事件に、深い悲しみと犯人に対する怒りを覚えます。これまでも、行政や学校などでは事件の防止にさまざまな取り組みを行ってきましたが、子どもの安全を守るのには限界がありました。

いま、市内には「地域の子どもたちは自分たちの手で守ろう」と組織されたボランティアの守る会が各地区で活躍しています。子どもたちを見守る地域の取り組みを紹介します。

行政の取り組み

昨年12月に設立された、『スクールガード中地区』は、中小学校児童の下校の安全を見守ります。約290人の会員が3人一組で下校時の付き添いを行っています。3年生の高橋美帆さんは「自分たちの安全を守ってくれてうれしい」と笑顔で話してくれました。中地区のように「地域の安全は、自分たちの力で」行う防犯活動は、現在、市内11の地区や自治会で行われています。

県教育委員会では、昨年8月にスクールガード・リーダー制度を導入しました。スクールガード・リーダーとは、各小学校を定期的に巡回して、警備のポイントなどを指摘し、安全体制の評価や、登下校時に見守りを行うボランティアなどに具体的な指導を行うものです。市内では、杉山勝男さん（薬師町）と河野精次さん（松原）が委嘱されています。「事件の防止には、地域みんなの目で子どもたちを見守ることが大切です」と杉山さん。

子どもたちを守るために、学校と地域が一体となった安全づくりは確実に進んでいます。

最後の1人まで送り届けます

「中地区の子どもたちは地域みんなの手で必ず守る」栃木県今市市でおきた小学1年生女兒の悲しい事件、その児童が遺棄された現場を見たとき私は誓いました。

これまでも、子どもたちを見守るため、「地域安全ボランティア」として活動はしていましたが、組織化されてなかったために、効果的で継続的な安全体制の確保ができていませんでした。これではいけないということで、自治会が中心となって、各種団体に協力を求めたところ、みなさんも危機意識を持っていたんですね、トントン拍子に会は組織されていきました。

下校時の付き添いは、子どもたち、保護者、そして私たちと三世代の交流の場でもあります。お互いの名前を覚え、気軽に話ができればいい。こういう活動が防犯効果を高めていくのだと思います。



スクールガード中地区
村上 叶 会長

■このコーナーを担当したのは、

須藤 いち子さん（谷中）

竜神様を通して深まる地域の和

私が住む旧下館市の谷中では、毎年12月に、集落が一体となって『竜神祭』を行っています。古くは各家庭でご馳走を作って食べるなどしていたそうですが、鎮守様である『八龍神社（龍神様）』に皆が集まって行うようになり、今年で30回目を迎えました。今回は、この『龍神祭』を紹介します。

水をつかさどる神様

旧下館市の伊讃地区にある谷中は、国道294号バイパスから五所街道を西に向かい、大谷川の手前に位置する静かな農村集落です。集落の西、大谷川にほど近いところに『八龍神社』が鎮座していて、皆から『龍神様』と呼ばれ親しまれています。この『龍神様』の境内で、集落が一体となって毎年行っているのが『龍神祭』です。

『龍神』は、水をつかさどる神様として、日本各地で様々な形で信仰されているようです。農家の人たちにとって水は、命と同様大事なものです。このように大事な神様を、集落をあげてお祝いすることができるのも、この集落にまとまりがあるからだと思っています。

旧下館市が発行していた広報下館の連載コーナー『ふるさとよもやまばなし』で紹介された谷中についての記事によると、以前は旧暦の2月と10月に、各家庭で赤飯やキンピラ、イモの煮っころがしなどのご馳走を作って食べていたようです。現在は、農作業が一段落したところで皆一堂に集まるようにと、

12月の第一日曜日に行っています。集落に住む21世帯を東組、西組、南組の3組に分け、毎年持回りでそのうち1組が、お祭りの当番となります。当番に当たった組は前日より準備にとりかかり、家族全員が協力して、お祭りで食べるご馳走を準備。そして当日、集落の皆に振舞うのです。お祭りは、自治会長さんのあいさつで10時ごろに始まります。終わりはその年によりまちまち。ご馳走をいただき余興を楽しんで、午後には終了します。

親睦を深める場として

『龍神祭』は、神様をお祝いする場であり、隣近所の和を深める場でもあります。最近では、ご馳走をいただくだけでなく、余興として輪投げなどを行い、集落内の親睦を深めています。輪投げには、老若男女を問わず全員が参加。このときばかりは皆、我を忘れて一生懸命です。このような汗のかき方もなかなかいいものだと思います。

今年も、毎日毎日私たち谷中の集落の生活を見ていく『龍神様』に感謝し、

無事にお祭りを行うことができました。お祭りを準備しているときは始まるのが楽しみですが、終わると何かほっとした気持ちになり、また反面、終わってしまったって残念という気持ちにもなります。そしてまた来年に向けて、がんばるぞという意欲が湧いてくるのです。『龍神祭』を通して集落の親睦を深めてくれるとともに、五穀豊穡、安全祈願のためにはなくてはならない『龍神様』。これからもずっと、私たち谷中の集落を見守り続けてください。

